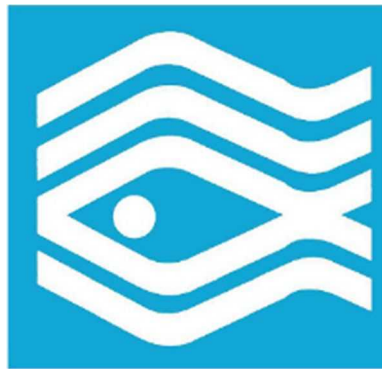


第43回全国豊かな海づくり大会

大分県実行委員会

《第1回総会》

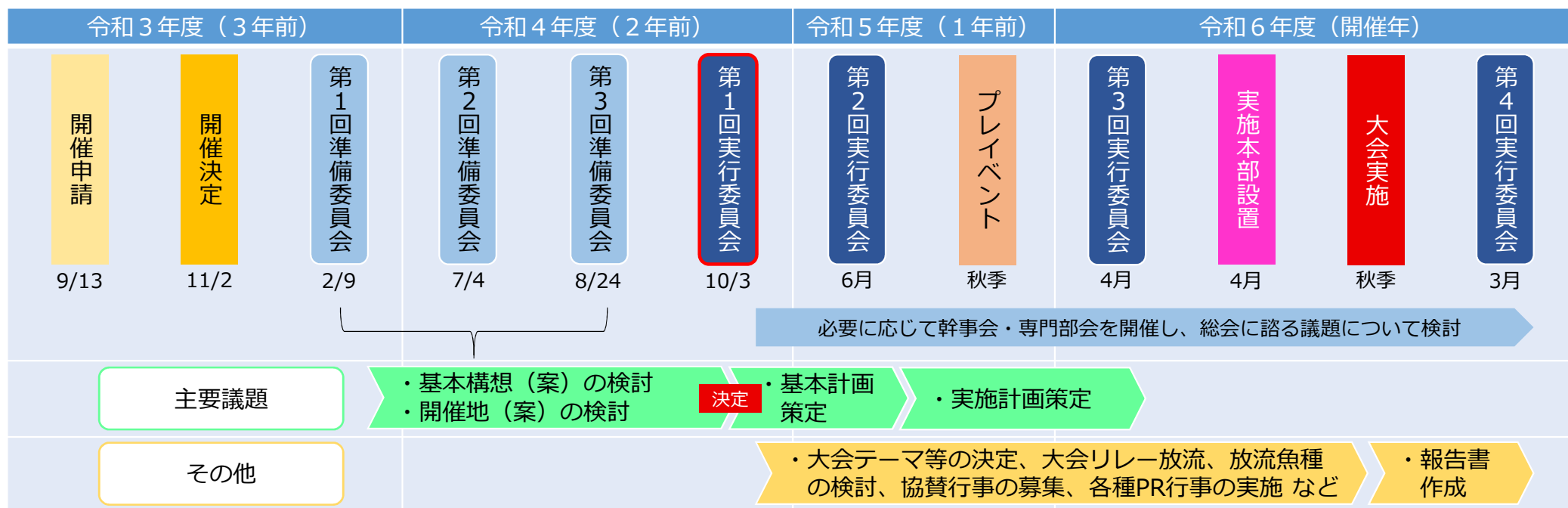
－ 資 料 －



大会公式シンボルマーク
(豊かな海づくり大会推進委員会)

令和4年10月3日(月)
レンブラントホテル大分 2階「二豊の間」

第43回全国豊かな海づくり大会のスケジュール（案）



基本構想	開催意義、基本理念、基本方針、開催場所など大会の大枠を定めたもの
基本計画	放流稚魚や各行事の会場配置、広報計画や大会運営方針などを盛り込んだ具体的な計画
実施計画	実施本部の組織体制や大会当日の各行事の進行などを盛り込んだ詳細な計画

資料 4

○ 第1号議案

第43回全国豊かな海づくり大会「基本構想（案）」

第43回全国豊かな海づくり大会 基本構想(案)

1 大分県の水産業

大分県は、九州の北東部に位置し、豊予海峡を境として北は瀬戸内海、南は豊後水道に面し、九州本土最高峰の中岳を含むくじゅう連山や、県内全域で温泉が満喫できる、源泉数・湧出量ともに日本一の「おんせん県」であるなど、豊かな自然環境に恵まれています。

瀬戸内海沿岸は、広大な干潟を有する豊前海や一級河川の大野川と大分川が流れ込む別府湾や豊後灘など多様な漁場で構成され、小型底びき網や刺し網、船びき網などを主体として、エビ類、マダイ、サワラ、シラスなどを水揚げしているほか、干潟域や内湾を利用したカキ養殖も盛んです。

一方、豊後水道は沿岸域がリアス海岸で形成される生産性の高い漁場となっており、まき網や定置網、一本釣りなどを主体として、アジやサバ、イワシをはじめとした多種多様な魚介類を水揚げしています。また、静穏域が多い海岸地形を利用して、生産量全国1位のヒラメ、2位のブリをはじめとして、クロマグロ、シマアジなどの魚類養殖業や貝類養殖業が盛んに行われています。

内水面では、九州で漁獲量1位のアユをはじめとした河川漁業のほか、ドジョウやスッポンなどの養殖業も営まれています。

全国の高級ブランド魚の先駆けである「関あじ関さば」をはじめ、「城下かれい」、「姫島車えび」、県の特産品であるカボスを餌に混ぜて育てた「かぼすブリ」、「かぼすヒラメ」などの魅力あるブランド水産物が多く存在し、複雑な海岸線により地域毎に多様な水産物が水揚げされています。

このような地域の特徴に根ざした多種多様な漁業は、四季折々の豊かな水産物を県内外に供給することはもちろん、水産加工品の原料や、観光資源としての利用など、本県の産業振興に重要な役割を果たしています。



(関あじ・関さば)



(かぼすブリ)

2 開催意義

(1) つくり育てる漁業をさらに推進していく絶好の機会

「全国豊かな海づくり大会」の第1回大会は、昭和56年に皇太子同妃両殿下をお迎えし、全国に先駆けて、本県の鶴見町(現:佐伯市鶴見)松浦漁港で開催されました。

大会を契機として、漁業関係者が一丸となり栽培漁業の推進や小型魚の漁獲規制、県下一斉休漁日の設定、環境に配慮した養殖業の振興などの取組が積極的に行われてきました。また、これらは水産資源が生育する環境を保全するための藻場造成や海岸の清掃、森林から川や海へのつながりを意識した植樹活動などの取組とあわせ、40年以上が経過した現在も技術向上などにより発展的に継続され、水産資源の保護・管理と環境保全の大切さは多くの漁業者の意識に根付いてきています。

一方で、水産資源の減少は続いており、それに伴う担い手の減少や高齢化の進行、消費者の魚離れなど水産業を取り巻く環境は一層厳しさを増しています。

本大会は、第1回目の開催県として、本県の漁業関係者のこれまでの努力とこれからの挑戦を県内外に広くアピールし、水産業についての理解と関心をさらに深めてもらうとともに、つくり育てる漁業の要である種苗生産施設(大分県漁業公社国東事業場)のリニューアルと相まって、さらなる取組を推進する絶好の機会となります。

(2) 環境保全の重要性を訴える貴重な機会

ふるさとの豊かな海を守っていくためには、栄養豊富な水を生み出す森林と、その水を海へ供給する河川の環境を保全していくことも重要です。また、国際的に大きな問題となっている海洋プラスチックゴミや地球温暖化による海洋環境の変化などの新たな課題に対しては、漁業者だけでなく消費者も含めた国民全体で取り組むことが不可欠です。第2回目の大会は、環境保全の重要性を広く訴えかけていくことのできる貴重な機会となります。

(3) 水産物の消費拡大と「おんせん県」の新たな魅力を発信できる機会

国内の水産物消費の減少が続く中、本県では消費拡大に向けて、お魚料理教室の開催や学校給食への利用促進、家庭で手軽に食べることができるレシピの開発などの魚食普及に取り組んでいます。大会は、これら魚食普及に一層取り組んでいく契機になるとともに、本県の豊かな海や川で育まれた多様な水産物の味力^{みりょく}を県内外に広く発信する機会となります。

また、県内で展開されている新たな取組である、航空機を利用した人工衛星の打ち上げ等、アジア初の水平型宇宙港としても活用が期待される大分空港や日本唯一の海上交通であるホーバークラフトの復活などについても「おんせん県おおいた」の新たな魅力として、令和6年春のデスティネーションキャンペーンとあわせ、全国に広く発信する機会となります。

3 基本理念

大分県の豊かな海や川を次代へ引き継いでいくため、つくり育てる漁業に一層取り組みとともに、それらを育む自然環境を守っていくことの重要性を県内外へ広く訴えかけます。

また、四季折々の味力あふれる多様な水産物に加え、「おんせん県おおいた」の新たな魅力を全国へ広く発信していきます。

4 基本方針

(1) 水産資源の保護と管理の一層の推進

水産資源の維持・増大を図り、「生産者の挑戦と努力が報われる漁業」の実現に向け、令和5年度にリニューアルする大分県漁業公社を核に、つくり育てる漁業をさらに推進するための大会とします。

(2) 森から川、海へとつながる豊かな自然環境の保全

森から川へ、川から海へとつながる自然環境や藻場造成などによる良好な沿岸環境の保全とともに、近年、国際的に大きな問題となっている海洋プラスチックゴミや地球温暖化などの環境問題に取り組むことの重要性について県内外へ広く訴えかけることで、本県の豊かな海や川を次代に引き継いでいく大会とします。

(3) 四季折々の多様な水産物の消費拡大

「関あじ関さば」、「城下かれい」、「かぼすぶり」、「姫島車えび」などのブランド水産物をはじめ、本県の海や川で生まれた四季折々の多様な水産物の味力^{みりょく}を県内外へ発信し、消費拡大を図る大会とします。

(4) おんせん県の新たな魅力を全国に発信

「宇宙港」としての発展が期待される大分空港、日本唯一の海上交通であるホーバークラフトの復活など本県では地域の活性化に向けた新たな取組を次々と展開しています。令和6年春のデスティネーションキャンペーンとあわせて、新たな魅力を全国に発信する大会とします。

第43回全国豊かな海づくり大会「基本構想（案）」

3. 基本理念

大分県の豊かな海や川を次代へ引き継いでいくため、つくり育てる漁業に一層取り組むとともに、それらを育む自然環境を守っていくことの重要性を県内外へ広く訴えかけます。
また、四季折々の味力あふれる多様な水産物に加え、「おんせん県おおいた」の新たな魅力を全国へ広く発信していきます。

4. 基本方針 (基本理念を支える4つの柱)

① 水産資源の保護と 管理の一層の推進

水産資源の維持・増大を図り、「生産者の挑戦と努力が報われる漁業」の実現に向け、令和5年度にリニューアルする大分県漁業公社を核に、つくり育てる漁業をさらに推進するための大会とします。

② 森から川、海へとつながる 豊かな自然環境の保全

森から川へ、川から海へとつながる自然環境や藻場造成などによる良好な沿岸環境の保全とともに、近年、国際的に大きな問題となっている海洋プラスチックゴミや地球温暖化などの環境問題に取り組むことの重要性について県内外へ広く訴えかけることで、本県の豊かな海や川を次代に引き継いでいく大会とします。

③ 四季折々の多様な 水産物の消費拡大

「関あじ関さば」、「城下かれい」、「かぼすぶり」、「姫島車えび」などのブランド水産物をはじめ、本県の海や川で育まれた四季折々の多様な水産物の味力を県内外へ発信し、消費拡大を図る大会とします。

④ おんせん県の新たな 魅力を全国に発信

「宇宙港」としての発展が期待される大分空港、日本唯一の海上交通であるホーバークラフトの復活など本県では地域の活性化に向けた新たな取組を次々と展開しています。
令和6年春のデスティネーションキャンペーンとあわせて、新たな魅力を全国に発信する大会とします。

5 大会の概要

(1) 名称 第43回 全国豊かな海づくり大会 ～おんせん県おおいた大会～

【参考】先催県の大会名称について

第41回全国豊かな海づくり大会 兵庫大会～御食国ひょうご～

第40回全国豊かな海づくり大会 ～食材王国みやぎ大会～

第39回全国豊かな海づくり大会・あきた大会

第38回全国豊かな海づくり大会 ～高知家大会～

(2) 主催 豊かな海づくり大会推進委員会
第43回全国豊かな海づくり大会大分県実行委員会

(3) 開催時期 令和6年秋季(土曜・日曜日の2日間)

(4) 開催場所 ・式典行事 : 未定
・海上歓迎・放流行事 : 未定

(5) 行事内容 ①式典行事
功績団体の表彰、最優秀作文の発表、漁業後継者の意思表示、
大会決議など
②海上歓迎・放流行事
漁船などによる海上歓迎パレード、種苗(稚魚)放流など
③歓迎レセプション
本県農林水産物の食材によるおもてなしなど
④関連行事
各種コンクール優秀作品の展示、企画展示・特産品販売など

(6) 大会テーマ等 公募により決定

資料 5

○ 第2号議案

第43回全国豊かな海づくり大会「開催地（案）」

第43回全国豊かな海づくり大会開催候補地の選定基準

1. 共通事項

- (1) 「式典行事」及び「海上歓迎・放流行事」の両会場は、沿海部の10市1町1村から選定する。
- (2) 「式典行事」及び「海上歓迎・放流行事」の両会場は、行事が十分実施できる規模とする。
- (3) 「式典行事」及び「海上歓迎・放流行事」の両会場は、宿泊施設、主要空港・駅からのアクセスが良好で、警備がしやすい場所とする。
- (4) 「式典行事」及び「海上歓迎・放流行事」の両会場は、円滑な大会開催が可能となるよう短時間で移動できる距離とする。
- (5) 地震・津波対策（ハザードマップの公表、高台避難等）が十分であること。

2. 式典会場

項目	内容
施設の規模	<ul style="list-style-type: none">・ 1,000人の招待者を収容可能な施設であること。・ 式典を行う十分なスペースが確保できること。・ 映像装置、音響装置が設置できること。・ 招待者の収容スペースとは別に、音楽隊席とTV放送スペースが確保できること。・ SVIP（要人）用、宮内庁用、皇室記者用、警備用及び出演者用等、10室程度の控室が確保できること。・ 会場の出入口が屋根付きであること。
駐車場の規模	<ul style="list-style-type: none">・ 招待者用や出演者用、スタッフ用の大型バスの駐車区画が35台以上確保できること。・ 出演者用やスタッフ用の普通車の駐車区画が300台以上確保できること。・ SVIP（要人）用駐車場（普通車20台、バス5台程度）が確保できること。・ SVIP（要人）等と一般招待客の動線が区別できること。
交通アクセス	<ul style="list-style-type: none">・ 空港や主要駅からの距離、時間が短いこと。・ 公道から会場入り口までのアプローチ道路があること（複数あることが望ましい）。
その他	<ul style="list-style-type: none">・ 施設の安全性（耐震性）を確保できること。・ 過去に開催した場所でないこと。・ 金属探知機や荷物預かり所が設営できること。・ 海上歓迎・放流行事会場まで短時間で到達できること。

3. 海上歓迎・放流行事会場

項 目	内 容
会場の規模	<ul style="list-style-type: none">・ 500 人の招待客が収容可能なスペースがあること。・ 会場は県管理の漁港又は港湾であること。・ 漁船パレードに参加する船が集結しやすく、十分な水深が確保できること。・ 放流台から漁船パレードを十分に視認でき、パレードが円滑に実施できる十分なスペースがあること。・ 放流台の設置が容易かつ十分なスペースが確保でき、安全に放流できる場所であること。
駐車場の規模	<ul style="list-style-type: none">・ SVIP（要人） 用駐車場（普通車 20 台、バス 5 台程度）が確保できること。・ 招待者用や出演者用、スタッフ用の大型バスの駐車区画が 20 台以上確保できること。・ 出演者用やスタッフ用の普通車の駐車区画が 150 台以上確保できること。・ 大型バスの安全な通行が確保できること。・ 大型バスの乗降場と旋回所が、出入口の近辺に設置できること。・ SVIP（要人） 等と一般招待客の動線が区別できること。
交通アクセス	<ul style="list-style-type: none">・ 空港や主要駅からの距離、時間が短いこと。・ 公道から会場入り口までのアプローチ道路があること（複数あることが望ましい）。・ 歩行者と車両の安全が確保できること。
その他	<ul style="list-style-type: none">・ 上屋施設がある場合、施設の安全性（耐震性）を確保できること。・ 過去に開催した場所でないこと。・ 金属探知機や荷物預かり所が設営できること。・ 海の豊かさを実感できる眺望であること。・ 式典会場から短時間で到達できること。

4. 関連行事会場

- (1) 出展やステージ出演、体験コーナー、物販、飲食、大型映像等による観覧等、十分な広さを確保できること。
- (2) 集客が容易であること。

第43回全国豊かな海づくり大会 「式典行事」 会場の評価基準

	○	△	×
	(現状で対応可能) ※以下の要件をすべて満たす施設	(措置を講じれば対応可能) ※既設の状態では要件を満たさないが、一定の措置を講じれば対応可能となる施設	(対応不可能) ※一定の措置を講じても要件を満たさない施設
交通アクセス	<p>【宿泊施設(想定)からの所要時間が短い】 ⇒ 1時間(60分)以内</p> <p>【アプローチ道路】 ⇒ 有り</p>	<p>【宿泊施設(想定)からの所要時間が短い】 ⇒ 1時間30分(90分)以内</p>	<p>【宿泊施設(想定)からの所要時間が短い】 ⇒ 1時間30分(90分)超</p> <p>【アプローチ道路】 ⇒ 無し</p>
施設の規模	<p>【会場の出入り口】 ⇒ 屋根付き</p> <p>【収容人数】 ⇒ 1,000人の招待者を収容可能</p> <p>【舞台の広さ】 ⇒ 式典を行う十分なスペースが確保可能</p> <p>【舞台装置】 ⇒ 映像装置、音響装置が設置可能</p> <p>【音楽隊・TVスペース】 ⇒ 音楽隊席とTV放送スペースが確保可能</p> <p>【控室】 ⇒ SVIP等の控室を10室程度確保可能</p>	<p>【会場の出入り口】 ⇒ 屋根はないが、別途設置可能</p> <p>【舞台の広さ】 ⇒ 別途舞台等の設置が可能</p> <p>【控室】 ⇒ 会議室等を使用すれば10室程度確保可能</p>	<p>【会場の出入り口】 ⇒ 屋根無し(別途措置不可能)</p> <p>【収容人数】 ⇒ 1,000人の収容不可能</p> <p>【舞台の広さ】 ⇒ 別途設置不可能</p> <p>【舞台装置】 ⇒ 設備設置不可能</p> <p>【音楽隊・TVスペース】 ⇒ 確保困難(別途措置不可能)</p> <p>【控室】 ⇒ 10室程度の確保不可能</p>
駐車場の規模	<p>【駐車場スペース】 ⇒ 招待者・出演者・スタッフ用として普通車300台以上、大型バス35台以上を確保可能</p> <p>⇒ SVIP(要人)用普通車20台、バス5台程度確保可能</p> <p>【SVIPと一般招待客の動線区分】 ⇒ 可能</p>	<p>【SVIPと一般招待客の動線区分】 ⇒ カラーコーン等で分離すれば可能</p>	<p>【駐車場スペース】 ⇒ 確保不可能</p> <p>⇒ SVIP(要人)用確保不可能</p> <p>【SVIPと一般招待客の動線区分】 ⇒ 分離不可能</p>
その他	<p>【過去開催の有無】 ⇒ 無し</p> <p>【金属探知機・荷物預かり所の設置】 ⇒ 可能</p> <p>【海上歓迎・放流行事会場への移動時間】 ⇒ 30分程度</p>	<p>【金属探知機・荷物預かり所の設置】 ⇒ 近隣のスペースを活用して設置可能</p>	<p>【過去開催の有無】 ⇒ 有り</p> <p>【金属探知機・荷物預かり所の設置】 ⇒ 設置不可能</p>

第43回全国豊かな海づくり大会 「海上歓迎・放流行事」 会場の評価基準

	○	△	×
	(現状で対応可能) ※以下の要件をすべて満たす施設	(措置を講じれば対応可能) ※既設の状態では要件を満たさないが、一定の措置を講じれば対応可能となる施設	(対応不可能) ※一定の措置を講じても要件を満たさない施設
交通アクセス	<p>【大分空港・主要駅からの所要時間】 ⇒ 1時間(60分)以内</p> <p>【アプローチ道路の有無】 ⇒ 有り</p> <p>【歩行者の安全確保】 ⇒ 可能</p>	<p>【大分空港・主要駅からの所要時間】 ⇒ 1時間30分(90分)以内</p> <p>【歩行者の安全確保】 ⇒ 歩道と車道一体でもロープ等で分離可能</p>	<p>【大分空港・主要駅からの所要時間】 ⇒ 1時間30分(90分)超</p> <p>【アプローチ道路の有無】 ⇒ 無し</p> <p>【歩行者の安全確保】 ⇒ 不可</p>
会場の規模	<p>【港の管理者】 ⇒ 県</p> <p>【放流台を設置する十分なスペース】 ⇒ 確保可能</p> <p>【収容人数】 ⇒ 500人程度の招待者を収容可能</p> <p>【駐車場スペース】 ⇒ 招待者・出演者・スタッフ用 普通車150台以上 大型バス20台以上 ⇒ SVIP(要人)用 普通車20台、バス5台程度</p> <p>【金属探知機・荷物預かり所の設置】 ⇒ 可能</p> <p>【大型車両の通行確保】 【大型車両の乗降場と旋回所】 ⇒ 出入口近辺に設置可能</p> <p>【SVIP(要人)と一般招待客の動線区分】 ⇒ 可能</p>	<p>【駐車場スペース】 ⇒ 近隣スペースを活用すれば確保可能</p> <p>【金属探知機・荷物預かり所の設置】 ⇒ 近隣のスペースを活用して設置可能</p> <p>【大型車両の通行確保】 【大型車両の乗降場と旋回所】 ⇒ 会場で乗降し、近隣施設で旋回・待機可能</p> <p>【SVIP(要人)と一般招待客の動線区分】 ⇒ カラーコーン等で分離可能</p>	<p>【港の管理者】 ⇒ 市町村</p> <p>【放流台を設置する十分なスペース】 ⇒ 確保不可能</p> <p>【収容人数】 ⇒ 500人程度の招待者を収容不可</p> <p>【駐車場スペース】 ⇒ 確保不可能</p> <p>【金属探知機・荷物預かり所の設置】 ⇒ 設置不可能</p> <p>【大型車両の通行確保】 【大型車両の乗降場と旋回所】 ⇒ 措置を講じても設置不可能</p> <p>【SVIP(要人)と一般招待客の動線区分】 ⇒ 分離不可能</p>
泊地の規模	<p>【水深】 ⇒ 港内水深5m以上</p> <p>【放流台からの視認性】 ⇒ 良好</p> <p>【パレードが円滑に実施可能なスペース】 ⇒ 確保可能</p>		<p>【水深】 ⇒ 港内水深5m未満</p> <p>【放流台からの視認性】 ⇒ 不良</p> <p>【パレードが円滑に実施可能なスペース】 ⇒ 確保不可能</p>
その他	<p>【過去開催の有無】 ⇒ 無し</p> <p>【眺望】 ⇒ 海の豊かさを実感できる眺望</p> <p>【式典会場からの移動時間】 ⇒ 30分程度</p>	<p>【眺望】 ⇒ 水平線を望めないが、周辺の自然が豊かであるなど、要件に近い眺望</p>	<p>【過去開催の有無】 ⇒ 有り</p> <p>【眺望】 ⇒ 水平線が望めない、工場群に囲まれているなど、ふさわしくない眺望</p>

第43回全国豊かな海づくり大会「式典行事」会場候補施設調査結果

※評価基準 …… ○：既存施設で対応可能 △：措置を講じることで対応可能 ×：対応不可

No	施設名	評価結果				特記事項
		交通アクセス	施設の規模	駐車場規模	その他	
1	iichiko グランシアタ	○	○	○	○	
2	昭和電工武道 スポーツセンター	○	△	○	○	・控室10室未満 ※会議室等の利用で対応は可能
5	ビーコンプラザ フィルハーモニアホー ル	○	△	○	○	・控室10室未満 ※会議室等の利用で対応は可能
4	ビーコンプラザ コンベンションホール	○	△	○	○	・控室10室未満 ※会議室等の利用で対応は可能
8	佐伯中央病院 アリーナ	○	△	○	○	・控室10室未満 ※会議室等の利用で対応は可能
3	ホルトホール 大分	○	△	×	○	・駐車場確保不可
6	中津文化会館	△	×	×	○	・1000人収容不可 ・駐車場確保不可 ・要人との動線区別不可
7	ダイハツ九州 アリーナ	○	×	×	○	・控室確保不可 ・要人との動線区別不可
9	さいき城山桜ホール	○	×	○	○	・1000人の収容不可
10	臼杵市民会館	○	×	×	○	・控室確保不可 ・駐車場確保不可
11	津久見市民会館	○	×	×	○	・1000人の収容不可 ・駐車場確保不可 ・要人との動線区別不可
12	豊後高田市 中央公民館	△	×	×	○	・1000人収容不可 ・控室確保不可 ・駐車場確保不可 ・要人との動線区別不可
13	杵築市 文化体育館	○	×	×	○	・控室確保不可 ・要人との動線区別不可
14	宇佐文化会館 ウサノビア	○	×	○	○	・控室確保不可
15	くにさき 総合文化 センター	△	×	○	○	・1000人の収容不可 ・控室確保不可

第43回全国豊かな海づくり大会「海上歓迎・放流行事」会場候補港・漁港調査結果

※評価基準 …… ○：既存施設で対応可能 △：措置を講じることで対応可能 ×：対応不可

No	港・漁港名	評価結果				特記事項
		交通アクセス	会場の規模	泊地の規模	その他	
4	別府港 (第4埠頭)	○	○	○	○	
11	臼杵港	△	○	○	△	・空港までの所要時間がやや長い ・歩行者の安全確保に措置が必要 ・眺望がやや不良
14	田深港	△	△	○	○	・歩行者の安全確保に措置が必要 ・駐車場の不足 近隣駐車場を利用することで対応可能
1	大分港 (西大分)	△	×	○	○	・駐車場の確保が困難なため不可
2	大分港 (大在埠頭)	△	△	×	×	・水深不可 ・眺望不良のため不可
3	佐賀関漁港	△	△	×	△	・水深不可 ・泊地が狭いため不可
5	亀川漁港	○	○	×	△	・水深不可
6	中津港	△	×	×	×	・放流台の設置不可(防護柵有り) ・眺望不良のため不可
7	佐伯港 (葛)	△	×	○	○	・駐車場の確保が困難なため不可
8	佐伯港 (女島)	×	○	○	△	・空港まで90分超のため不可
9	蒲江漁港	×	×	○	○	・空港まで90分超のため不可 ・駐車場の確保が困難なため不可
10	蒲江漁港 (小蒲江)	×	×	×	○	・泊地が狭いため不可 ・空港まで90分超のため不可 ・駐車場の確保が困難なため不可
12	守江港 (灘手)	△	△	×	○	・水深不可
13	守江港 (納屋)	△	△	×	○	・水深不可
15	日出港	△	×	○	×	・駐車場の確保が困難なため不可 ・眺望不良のため不可

第43回全国豊かな海づくり大会 開催候補地の選定(案)

No.	大会会場の組合せ		式典会場		海上歓迎・放流会場		合計	
	式典行事	⇒ 海上歓迎 放流行事	↓ 海上歓迎・放流会場	↓ 大分空港				
1	iiichikoグランシアタ	⇒ 別府港 (第4埠頭)	14.1 km	20 分			49.2 km	55 分
2	昭和電工 武道スポーツセンター	⇒ 別府港 (第4埠頭)	34.1 km	35 分	35.1 km	35 分	69.2 km	70 分
3	ビーコンプラザ	⇒ 別府港 (第4埠頭)	4.2 km	7 分			39.3 km	42 分
4	佐伯中央病院アリーナ	⇒ 臼杵港	27.2 km	28 分	92.3 km	75 分	119.5 km	103 分

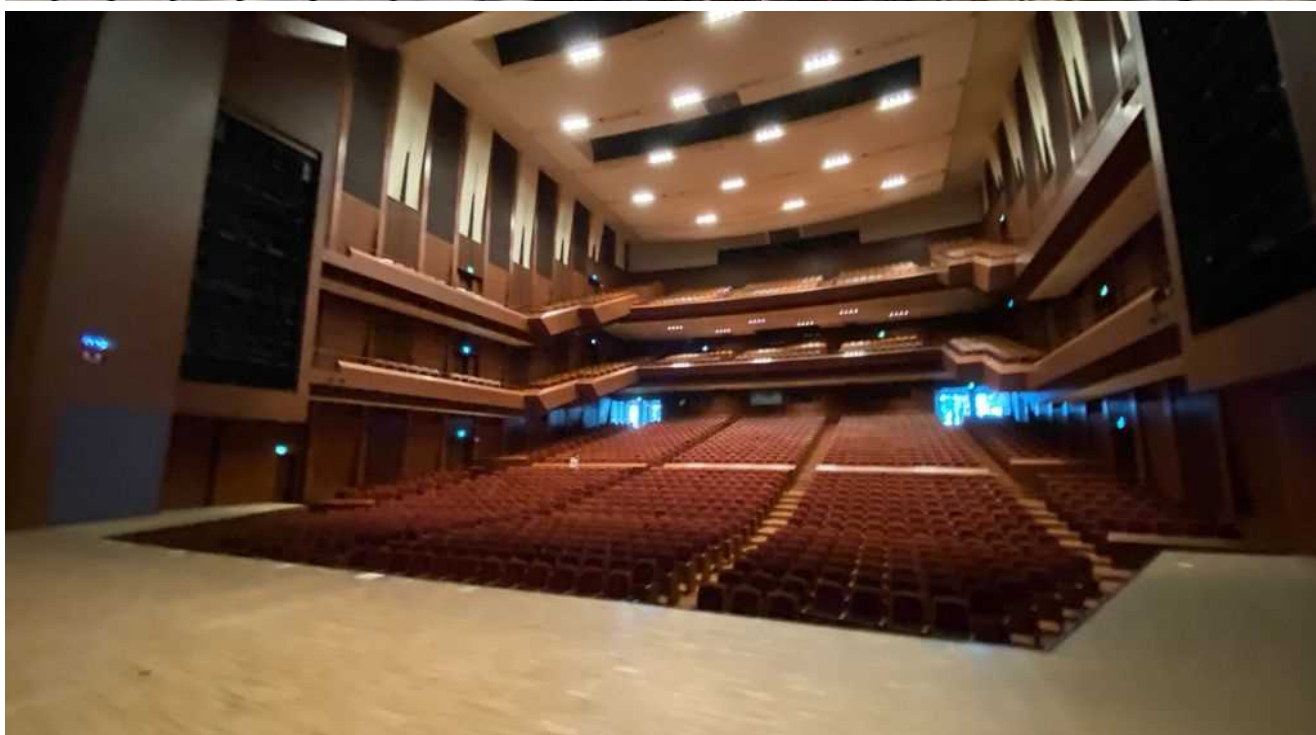
※上記時間は、Googlemapの経路検索を利用して10月第3週の日曜出発の設定で得られた最短の時間を用いた。

※以下は、国土地理院地図 (<https://maps.gsi.go.jp/#12/32.931327/131.931381/&base=pale&ls=pale&disp=1&vs=c0g1j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f1&d=m>) を基に大分県作成



【式典行事開催会場候補】 iichiko総合文化センター(iichikoグランシアタ)

平成30年10月6日の第33回国民文化祭・おおいた2018、第18回全国障害者芸術・文化祭おおいた大会の式典会場として活用されたiichikoグランシアタは、1,966人の観客を収容できる規模と十分な広さの舞台ステージ、複数の控室などを兼ね備えています。



【海上歓迎・放流行事開催候補】 別府湾(別府港第4埠頭)

別府湾は、多様な漁船漁業(底びき網、船びき網、刺し網など)が営まれている豊かな漁場です。湾岸(大分、別府、杵築、日出)の漁業者による種苗放流も盛んに行われるなど、つくり育てる漁業に力を入れている海域でもあります。



別府港第4埠頭は、平成23年3月にクルーズ船専用の港として供用開始され、大型クルーズ船の寄港地となっています。

耐震強化岸壁や船舶が安全に航行できる水深と泊地の広さを兼ね備えているという点に加え、背後の広大な多目的広場を活用したおもてなし会場や駐車スペースの設置が可能な点など、大会参加者を安心してお迎えすることができる場所です。

さらに、メイン行事を開催する岸壁からは、別府湾の豊かな漁場を一望ことができ、背後には日本一のおんせん県おおいたを代表する観光地である別府市街地が広がっています。



資料 6

○ 第3号議案

第43回全国豊かな海づくり大会 大分県実行委員会
令和4年度 事業計画及び収支予算（案）

令和4年度 事業計画(案)

1. 実行委員会運営事業

739千円

会議の名称	開催計画	審議内容等
実行委員会総会	1回	・基本構想の策定 ・主要行事開催地の決定 ・事業計画・収支予算の審議 等
幹事会	2回	・基本計画の原案作成 ・大会テーマ等の審査 等
専門部会	2回	・基本計画の素案作成 等

2. 企画運営・広報事業

1,474千円

(1)大会テーマ等の募集・選考事業

募集内容	
テーマ	大会の基本理念を簡潔に表現した標語・スローガンを募集 ※全国大会の位置付けから、「大分県」、「九州」、「開催地名」等の地域を特定する言葉の使用は避ける。
コスチュームデザイン	大分県応援団“鳥“「めじろん」のコスチュームデザインを募集 ※大会趣旨を踏まえた大分県の水産業をイメージさせるデザイン ※キャラのイメージを損なわず、着ぐるみを想定したデザイン ※希望によって市町村のキャラクターが使用することも想定
ロゴマークデザイン	大会周知と県産魚 PR にも活用できるようなロゴマークデザインを募集 ※大会終了後も継続活用を想定

○公募の目的



- ・大分大会の周知をきっかけに、多くの方へ水産業や海洋環境の変化に関する問題提起を行う機会とする。
- ・同時に、大分県の多様な水産物の味力や、「おんせん県おおいた」の様々な魅力を全国に発信する。
- ・一部の関係者だけで決めるのではなく、県内外の多くの方から作品の応募をいただくことで、より多くの方が関わることのできる大会とする。

○募集概要

応募資格：国内在住者

募集期間：令和4年10月～令和5年1月

表彰区分：最優秀賞1点 優秀賞2点 佳作3点 それぞれ計6点選出

先催県の例	
テーマ	S56年開催 大分県 「育てよう 豊かな海を ふるさとを」 R3年開催 宮城県 「よみがえる 豊かな海を 輝く未来へ」 R4年開催 兵庫県 「広げよう 碧く豊かな 海づくり」 R5年開催 北海道 「守りぬく 光輝く 豊かな海」
コスチューム デザイン	R4年開催 兵庫県マスコットキャラクター「はばタン」 ※平成18年開催の第61回国民体育大会「のじぎく兵庫国体」マスコットキャラクター。平成19年以降は県政PRマスコットとして活動中 
ロゴマーク デザイン	H29年開催 福岡県 

○募集の周知方法

- ・チラシ、ポスターの配布(県内全ての小中高等学校、県、市町村、漁業系統団体等)
- ・県ホームページで専用ページを開設
- ・県市町村広報誌への掲載
- ・ラジオ・SNSでの告知
- ・個人・企業・地方公共団体等が行う公募をまとめた専門雑誌・WEBサイトへの掲載

○スケジュール(案)

R4.10月：募集開始

R5.1月：募集終了、中立かつ公正な審査を行うため「審査委員会」を発足

R5.2～3月：事務局、審査委員会による審査を実施

R5.6月：県実行委員会第2回総会にて決定

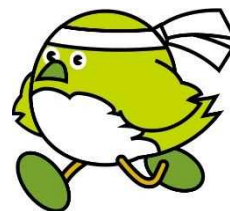
○決定された大会テーマ等による広報

- ・大会テーマ等を使った PR グッズを制作し、各種イベントで活用するとともに、のぼり、横断幕、懸垂幕、カウントダウンボード等の屋外広告物により大会を広く周知。

○大分県応援団”鳥”「めじろん」

めじろんは、平成 16 年に、第 63 回国民体育大会「チャレンジ！おおいた国体」、第 8 回全国障害者スポーツ大会「チャレンジ！おおいた大会」のマスコットとして、大分県の県鳥である「メジロ」をモチーフにデザインされたキャラクターです。

大会終了後、大分県応援団”鳥”に就任し、県行政の広報・PR 活動に活躍しています。



(基本形)

(2)大会記念リレー放流事業

○目的

- ・大会本番の放流行事に向けて、聖火リレーの様に県内各地で稚魚等の放流を実施することで、県民への大会の周知と機運醸成を図る。
- ・主に園児や児童を対象に教育活動の一環として、水産業・水産生物への理解を深めてもらう。

○内容

県漁業協同組合及び市町村等の協力のもと、園児・児童等による稚魚の放流を各地で実施し、大会当日に向けてリレー方式で繋いでいく。

時 期:令和4年 10 月～令和6年 10 月(開催まで)

場 所:県内各地

〈実施イメージ〉 ※写真は兵庫県で実施されたもの



○令和4年度スケジュール(案)

10月11日：第1回リレー放流(佐伯市立松浦小学校)

11月8日：第2回リレー放流(日出町立日出小学校)

その他の地区についても実施を検討

(3)大会PR・情報発信事業

大会の機運醸成と同時に、県内外に以下の大会の基本理念や基本方針につながる情報について周知していくため、PR資料の作成や県ホームページ等での情報発信を行う。

- ① 水産資源の保護と管理に関する漁業関係者の取組の現状と課題
- ② 森から川、海へとつながる豊かな自然環境を保全することの重要性
- ③ 水産物の消費拡大、魚食文化継承の必要性
- ④ おんせん県おおいたの他県に自慢できる新たな魅力

第3号議案

令和4年度 収支予算(案)

自 令和4年10月3日

至 令和5年3月31日

1. 収入の部

(単位:千円)

項目	予算額	摘要
1 負担金	2,213	大分県からの負担金
合計	2,213	

2. 支出の部

(単位:千円)

項目	予算額	摘要
1 実行委員会運営費	739	実行委員会、幹事会、専門部会
2 企画運営・広報費	1,474	大会テーマ等募集・選定 大会記念リレー放流 等
合計	2,213	

資料 7

○ その他

R5年度以降の機運醸成計画について

大会の基本方針

①水産資源の保護と
管理の一層の推進

②森から川、海へとつながる
豊かな自然環境の保全

③四季折々の多様な
水産物の消費拡大

④おんせん県の新たな
魅力を全国に発信

イベント等を通して目指したい具体的イメージ

▶科学的な根拠に基づく資源管理の運用により、漁業者の意識がさらに向上する。

▶多くの漁業者が、より効果的な種苗放流を実践するようになる。

▶水産業や漁業者の取組（資源管理や栽培漁業）について、県民が関心を持つようになる。

▶県民が、ふるさと大分の川や海を意識する機会が増える。

▶県民が、森、川、海のつながりを意識した行動をとるようになる。

▶県民のプラごみ削減意識が向上する。

▶県民の家庭内や外食における魚料理選択機会が増える（消費量が増加する）。

▶県民が、県内水産物の味力を再認識し、誇りを持てる。

▶県外消費者が、大分の多様な水産物の味力に気付き、購入量が増える。

▶大会参加者又は広報物を見た県外在住者が、宇宙港などの新たな大分の魅力を知り、大分を訪れてみたいくなる。

▶県民が、県外の知人等へ宇宙港などの大分の新たな魅力を発信（自慢）したくなる。

1 大会前年度からの機運醸成イベント

1年前プレイベント（R5秋頃）

- 海上歓迎・放流行事のリハーサル
〔場所：海上歓迎・放流行事を行う会場（港）〕
- 水産物などの物販ブースや海洋環境問題などを楽しく学べる啓発ブースなどを設置

※写真は秋田県提供



その他、大会の機運醸成イベント（R5～）

①市町村主体で開催する各地の既存イベント等と連携

例) おおいたマルシェでの「海づくり大会PRキャラバン実施」など

②県内の各種団体などと連携した共催事業

例) 児童等を対象にした環境学習、海づくりシンポジウムなど

③協賛募集

開催趣旨に賛同いただける自治体、企業、団体等の実施する協賛行事を募集

例) 海岸清掃活動、水産物消費拡大イベントなど

2 大会**当日**の関連行事

豊かな海づくりフェスタ等（1日目 土曜, 2日目 日曜）（R6）

式典などの主要行事は、関係者のみを招待したものとなるため、以下の①～③について、「県民参加型」イベントを検討

- ① 式典行事などの映像のリモート中継による一体感の創出
- ② 海上歓迎・放流行事会場と同時に稚魚等を放流
- ③ 県農林水産祭との連携